

災害食の備蓄状態と意識に関するアンケート調査

Questionnaire Survey on Stockpile State of Disaster Food and Awareness of Food Stockpiling

○守真弓¹, 守茂昭²
Mayumi MORI¹ and Shigeaki MORI²

¹ 特定非営利活動法人高度情報通信都市・計画シンクタンク会議 非常食研究会

Emergency Food Research Group, Telecom-Society Planners And Corporations

² 一般財団法人都市防災研究所, 東京駅周辺防災隣組

Urban Disaster Research Institute, Tokyo Central Commuters Corps.

In the "20th 'Shinsai Expo' Yokohama 2016" on February 4 and 5, 2016, a joint exhibition and food tasting was held by plural food maker companies. A questionnaire survey on stockpile state of disaster food and awareness of food stockpiling was conducted with respect to visitors to the booth of the joint exhibition and food tasting. Regarding questions about stockpiles of drinking water (water, tea, juice etc.), staple food (dried alpha-rice, hardtack, etc.), meat (fish meat, beef, pork, chicken etc.), side dishes (fruit and vegetables), and others (confectionery, alcohol, coffee etc.), about evaluation of stockpiles, and about the reasons for insufficient stockpiling, attribute-based analysis was performed on the survey results, to find the cause of delayed progress of food stockpiling even through the Great East Japan Earthquake.

Key Words : Stockpile, disaster food, drinking water, dried alpha-rice, hardtack

1. はじめに

(1) 高まる備蓄の重要性

非常食研究会では飲料水・食料の備蓄および消費に関する調査研究, および新しい災害時の食(災害食)の考え方について普及啓発活動を行っている。新しい災害食の考え方とは、「3日程度命をつなぐだけの水と食べ物であって、長期保存が可能な、管理が簡単な非常食があればよい」という従来の一般的な考え方に対し、「発災直後から長期に渡る被災生活において心身の健康への被害を低減するための食であって、要配慮者を含む、被災地で生活する全ての人の食を考える」というものである。この考え方によると、「いつものように食べられない時の食事」を普段の食事に近づける工夫として備蓄の内容を検討する必要がある。

2011年に東日本大震災が起きると、全国的に飲料水や食料が買い占められ被災圏の人々をよけいに苦しめることとなった。このような事態を避けるためにも、ローリングストックと呼ばれる一般家庭での日常的な買い置きと消費の工夫、企業や施設においても備蓄の重要性が指摘されるようになっていく。

内閣府「中央防災会議」防災対策推進検討会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループの平成25年12月の最終報告では、家庭や企業において最低でも3日分、可能な限り1週間分程度の食料・飲料水・カセットコンロ・災害用トイレ及び生活必需品等の備蓄及び日常的に一定量以上の燃料(ガソリン満タン、灯油1缶増等)の備蓄を努めるべきであるとしている¹⁾。

東京都は11月19日を「備蓄の日」と定めて都民の備蓄推進を図っている²⁾。

(2) 震災対策技術展でのアンケート調査

2016年2月4日及び5日に開催された「第20回『震災対策技術展』横浜2016」(於パシフィコ横浜)において、日本災害食学会では、食品メーカー複数社による合同展示会・試食会を行った。震災対策技術展の来

場者は一般企業の防災担当、防災関連企業、自治体関係者、地元の住民など多様であるが、少なくとも防災に何等かの係りや興味があると考えられる。ブースへの来場者に試食後にアンケートへの協力を依頼し記入していただいた。近年災害が多発するなか、備蓄の状況や意識についての情報を収集し、備蓄を推進するための方策を検討することを目的としたものである。

2. 調査の実施

(1) 質問内容

「飲料水(水, お茶, ジュース等)」「主食系(アルファ化米, カンパン等)」「副食系(魚肉, 牛豚鶏等)」「副食系(野菜, 果実等)」「その他(菓子, 嗜好品等)」の備蓄状況について、「備蓄していない」「3日未満」「3日分」「7日分」「7日以上」のいずれかを選択するようにした。食料備蓄についての評価として、「備蓄は十分である」「備蓄は不十分である」のいずれかを選択するようにした。それから、備蓄が不十分になる理由について、「予算が足りない」「スペースが足りない」「管理の手間」「その他(自由記載欄を含む)」のいずれかを選択するようにした。

展示・試食会ブースへの来場者が、試食を行った後にアンケート用紙を渡して記入をお願いした。2日間で237票の回答を得た。

表1 所属先別の回答件数および割合

飲料水(水・茶・ジュース等)	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
備蓄していない	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	10	17.2%	11	12.8%	4	13.3%	4	20.0%
3日未満	2	18.2%	3	50.0%	1	12.5%	20	34.5%	21	24.4%	7	23.3%	9	45.0%
3日分	6	54.5%	2	33.3%	2	25.0%	10	17.2%	32	37.2%	10	33.3%	4	20.0%
7日分	2	18.2%	1	16.7%	3	37.5%	15	25.9%	18	20.9%	7	23.3%	3	15.0%
7日以上	1	9.1%	0	0.0%	1	12.5%	3	5.2%	4	4.7%	2	6.7%	0	0.0%
無回答	1	0.0%	2	0.0%	2	0.0%	0	0.0%	3	0.0%	4	0.0%	6	0.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%
主食系(アルファ化米・カンパン等)	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
備蓄していない	0	0.0%	1	16.7%	2	25.0%	10	17.2%	15	17.4%	7	23.3%	11	55.0%
3日未満	3	27.3%	3	50.0%	1	12.5%	20	34.5%	23	26.7%	7	23.3%	8	40.0%
3日分	6	54.5%	2	33.3%	3	37.5%	10	17.2%	26	30.2%	5	16.7%	1	5.0%
7日分	2	18.2%	1	16.7%	2	25.0%	15	25.9%	12	14.0%	6	20.0%	0	0.0%
7日以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%	1	1.2%	2	6.7%	0	0.0%
無回答	1	0.0%	1	0.0%	2	0.0%	0	0.0%	12	10.5%	7	10.0%	6	0.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%
副食系(魚肉・牛豚鶏等)	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
備蓄していない	2	18.2%	3	50.0%	5	62.5%	10	17.2%	37	43.0%	13	43.3%	10	50.0%
3日未満	0	0.0%	1	16.7%	1	12.5%	20	34.5%	21	24.4%	4	13.3%	7	35.0%
3日分	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	10	17.2%	11	12.8%	4	13.3%	1	5.0%
7日分	1	9.1%	1	16.7%	2	25.0%	15	25.9%	4	4.7%	6	20.0%	0	0.0%
7日以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%	0	0.0%	2	6.7%	0	0.0%
無回答	7	54.5%	3	16.7%	2	0.0%	0	0.0%	16	15.1%	5	3.3%	8	10.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	16	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%
副食系(野菜・果物等)	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
備蓄していない	2	18.2%	4	66.7%	4	50.0%	10	17.2%	52	60.5%	14	46.7%	12	60.0%
3日未満	0	0.0%	1	16.7%	2	25.0%	20	34.5%	13	15.1%	6	20.0%	4	20.0%
3日分	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	10	17.2%	7	8.1%	4	13.3%	0	0.0%
7日分	1	9.1%	1	16.7%	2	25.0%	15	25.9%	4	4.7%	1	3.3%	1	5.0%
7日以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%	0	0.0%	2	6.7%	0	0.0%
無回答	7	54.5%	2	0.0%	2	0.0%	0	0.0%	13	11.6%	7	10.0%	6	15.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%
その他(菓子・嗜好品)	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
備蓄していない	0	0.0%	4	66.7%	3	37.5%	10	17.2%	41	47.7%	11	36.7%	4	20.0%
3日未満	1	9.1%	1	16.7%	2	25.0%	20	34.5%	17	19.8%	8	26.7%	10	50.0%
3日分	3	27.3%	0	0.0%	1	12.5%	10	17.2%	14	16.3%	6	20.0%	2	10.0%
7日分	1	9.1%	1	16.7%	2	25.0%	15	25.9%	5	5.8%	1	3.3%	0	0.0%
7日以上	2	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.2%	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%
無回答	5	36.4%	2	0.0%	2	0.0%	0	0.0%	12	10.5%	7	10.0%	10	20.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%
飲食物備蓄の評価	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
備蓄は十分である	3	25.0%	1	16.7%	2	25.0%	30	60.0%	25	30.5%	10	32.3%	3	15.0%
備蓄は不十分である	9	75.0%	5	83.3%	6	75.0%	20	40.0%	57	69.5%	21	67.7%	17	85.0%
無回答	0	0.0%	2	0.0%	2	0.0%	8	0.0%	7	0.0%	3	0.0%	6	0.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%
備蓄が不十分になる理由について	省庁・自治体		交通機関・ライフライン		教育・研究機関		防災関連企業		一般企業		団体・組合		個人	
予算が足りない	2	16.7%	2	25.0%	3	30.0%	12	20.0%	21	23.6%	10	30.3%	3	11.5%
スペースが足りない	4	33.3%	4	50.0%	2	20.0%	18	30.0%	36	40.4%	15	45.5%	6	23.1%
管理の手間	4	33.3%	2	25.0%	3	30.0%	24	40.0%	28	31.5%	5	15.2%	15	57.7%
その他	2	16.7%	0	0.0%	2	20.0%	4	10.0%	4	4.5%	3	9.1%	2	7.7%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%
合計	12	100.0%	8	100.0%	10	100.0%	58	100.0%	89	100.0%	34	100.0%	26	100.0%

(2) 回答の集計

各質問項目に対する所属先別の回答件数および割合は表1に示すとおりである。

属性は省庁・自治体、交通機関・ライフライン、教育・研究機関、防災関連企業、一般企業、団体・組合、個人（自宅）とした。全237票のうち一般企業が89票と最も多く、次に防災関連企業58票、団体・組合34票、個人（自宅）26票、省庁・自治体12票、教育・研究機関10票、交通・ライフライン8票の順であった。

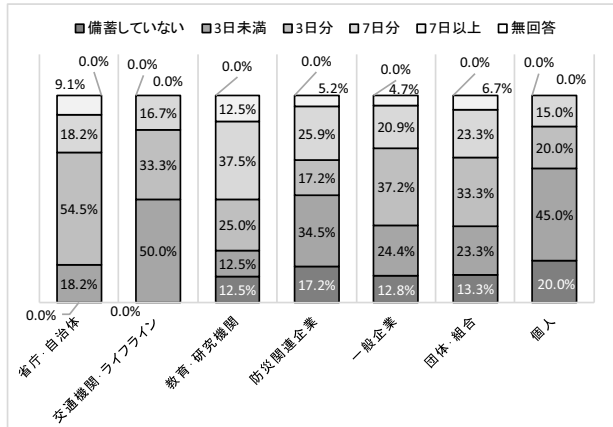
属性ごとの票数が大きく異なるため、無回答件数を加えて100%として、各質問について属性別の積み上げ100%棒グラフで結果を表した。

3. 考察

(1) 備蓄状況

図1は飲料水（水・お茶・ジュース等）の備蓄状況を示している。

図1 飲料水（水・お茶・ジュース等）



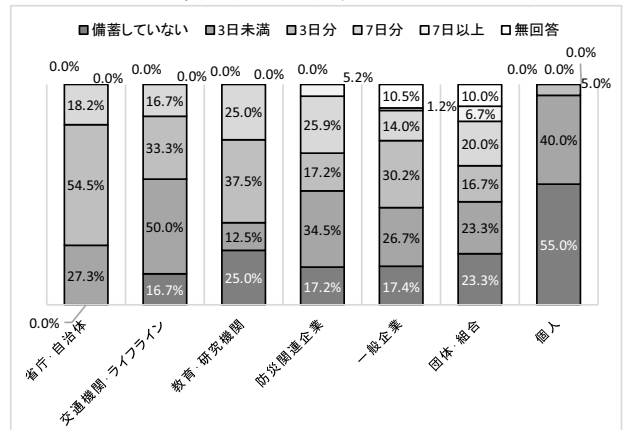
「備蓄していない」では個人20.0%、次いで防災関連企業17.2%、団体・組合13.3%、一般企業12.8%、教育・研究機関12.5%であり、省庁・自治体、交通・ライフラインはともに0.0%である。「3日未満」で最も多いのは交通・ライフライン50.0%、次いで個人45.0%、防災関連企業34.5%である。「3日分」で最も多いのは省庁・自治体54.5%、次いで一般企業37.2%、交通機関・ライフライン、団体・組合ともに33.3%である。

「7日分」および「7日以上」は全体に低い割合である。

全体に3日分と3日未満が多く、7日分および7日以上は少ない。

図2は主食系（アルファ化米・カンパン等）の備蓄状況を示している。

図2 主食系（アルファ化米・カンパン等）



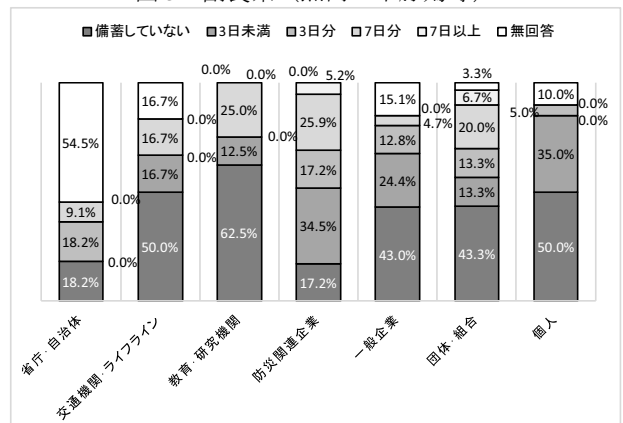
「備蓄していない」では個人55.0%、次いで教育・研究機関25.0%、団体・組合23.3%、一般企業17.4%、防災関連企業17.2%、教育・研究機関12.5%、交通・ライフライン16.7%であり、省庁・自治体は0.0%である。

「3日未満」で最も多いのは交通・ライフライン50.0%、次いで個人40.0%、防災関連企業34.5%である。「3日分」で最も高いのは省庁・自治体54.5%、次いで教育・研究機関37.5%、交通機関・ライフライン33.3%、一般企業30.2%、団体・組合16.7%、個人5.0%である。「7日分」で30%を超えたところはなく、「7日以上」は10%を超えたところはなく、0%が目立っている。

主食系は3日分を中心に備蓄され、全体に飲料水よりも割合が低いことがわかる。

図3は副食系（魚肉・牛豚鶏等）の備蓄状況を示している。

図3 副食系（魚肉・牛豚鶏等）

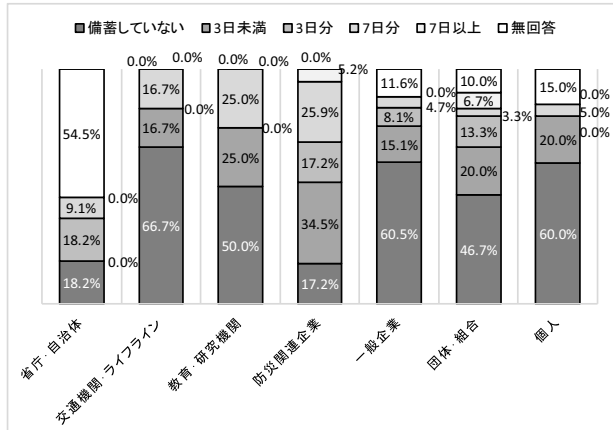


「備蓄していない」では教育・研究機関62.5%、ついで個人および交通・ライフライン50.0%と高く、団体・組合43.3%、一般企業43.0%も高く、省庁・自治体18.2%、防災関連企業17.2%も10%台である。「3日未満」で最も多いのは個人35.0%、次いで防災関連企業34.5%、一般企業24.4%である。交通・ライフライン、団体・組合、教育・研究機関はいずれも10%台と低く、省庁・自治体は0.0%である。「7日分」で30%を超えたところはなく、「7日以上」は10%を超えたところはなく、0%が目立っている。

副食系（魚肉・牛豚鶏等）は3日未満を中心に備蓄され、全体に割合が低いことがわかる。

図4は副食系（野菜・果実等）の備蓄状況を示している。

図4 副食系（野菜・果実等）



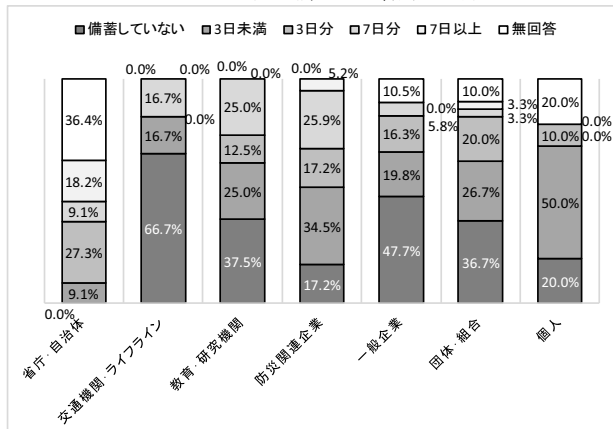
「備蓄していない」では交通機関・ライフライン 66.7%、一般企業 60.5%、個人 60.0%と 60%台であり、教育・研究機関 50.0%、団体・組合も 46.7%と高い。

「3日未満」で防災関連企業が 34.5%であるほかは、「3日分」「7日分」では 30%を超えたところはなく、「7日以上」では 0%が目立っている。

副食系（野菜・果実等）は3日未満を中心に備蓄され、（魚肉・牛豚鶏等）よりも備蓄の割合が低いことがわかる。

図5はその他（菓子・嗜好品等）の備蓄状況を示している。

図5 その他（菓子・嗜好品等）



嗜好品はコーヒー・紅茶、アルコールなどである。「備蓄していない」では交通機関・ライフラインの 66.7%が目立つが、一般企業 47.7%、教育・研究機関 37.5%、団体・組合 36.7%と他は 50%を超えたところはない。「3日未満」では個人 50.0%が最も高く、防災関連企業 34.5%のほかは 30%をこえたところはない。「3日分」では省庁・自治体 27.3%、団体・組合 20.0%で、ほかは交通機関・ライフラインの 0.0%を除いて 10%台である。「7日分」では 30%を超えたところはなく、

「7日以上」では省庁・自治体の 18.2%を除くと 0%が目立っている。

嗜好品は3日未満を中心に備蓄され、上記の2種類の副食系と似ているが、「備蓄していない」割合は副食系より低めであることがわかる。

(2) 属性別の備蓄状況

省庁・自治体

省庁・自治体の備蓄の割合で最も高いのは、飲料水、主食系とも「3日分」、副食系（魚肉・牛豚鶏等）および副食系（野菜・果実等）も主食系より低いがともに「3日分」である。その他（菓子・嗜好品等）も「3日分」である。

全項目で「3日分」が最も高い割合で備蓄しているため、3日分を目安に備蓄しているように考えられる。

交通機関・ライフライン

交通機関・ライフラインの備蓄の割合で最も高いのは、飲料水、主食系とも「3日未満」、副食系（魚肉・牛豚鶏等）および副食系（野菜・果実等）は「備蓄していない」である。その他（菓子・嗜好品等）も「備蓄していない」である。

飲料水と主食系を3日未満程度の量を備蓄して、副食、菓子・嗜好品は備蓄しない傾向にあるように考えられる。

教育・研究機関

教育・研究機関の備蓄の割合で最も高いのは、飲料水が「7日分」である。主食系は「3日分」で、副食系（魚肉・牛豚鶏等）および副食系（野菜・果実等）、その他（菓子・嗜好品等）は「備蓄していない」である。

票数が少ないため傾向を読み取ることは難しいが、交通機関・ライフラインに似た備蓄状況であるように考えられる。

防災関連企業

調査の前には、防災関連企業は、最も備蓄をしているのではという期待があった。しかし、集計結果を見ると、全項目とも 50%以上の値がなく、他の属性より備蓄の割合が高いのは副食系（野菜・果実等）だけである。

防災関連企業の結果は、全ての項目において備蓄割合が、「備蓄していない」17.2%、「3日未満」34.5%、「3日分」17.2%、「7日分」25.9%、「7日以上」5.2%と一致している。アンケート用紙を調べたところ、「備蓄していない」10票のみ、全項目で「備蓄していない」という回答であった。つまりこの10社は飲食料を備蓄していないことになる。

備蓄は3日未満が中心であるが、7日分の努力をしているところもあるように考えられる。

一般企業

展示・試食ブースへの来場者で最も多かった一般企業の備蓄の割合は、50%を超えたところがなく全体に低い。備蓄の割合で最も高いのは飲料水、主食系で「3日分」であり、副食系（魚肉・牛豚鶏等）および副食系（野菜・果実等）、その他（菓子・嗜好品等）は「備蓄していない」である。

飲料水および主食系の3日分の備蓄が中心であり、副

食、菓子・嗜好品は備蓄しない傾向にあるように考えられる。

団体・組合

団体・組合の備蓄の割合も50%を超えたところがなく全体に低い。備蓄の割合で最も高いのは、飲料水で「3日分」であり、主食系で「3日未満」である。副食系（魚肉・牛豚鶏等）および副食系（野菜・果実等）、その他（菓子・嗜好品等）は「備蓄していない」である。

飲料水は3日分、主食系は3日未満の備蓄が中心であり、副食、菓子・嗜好品は備蓄しない傾向にあるように考えられる。

個人

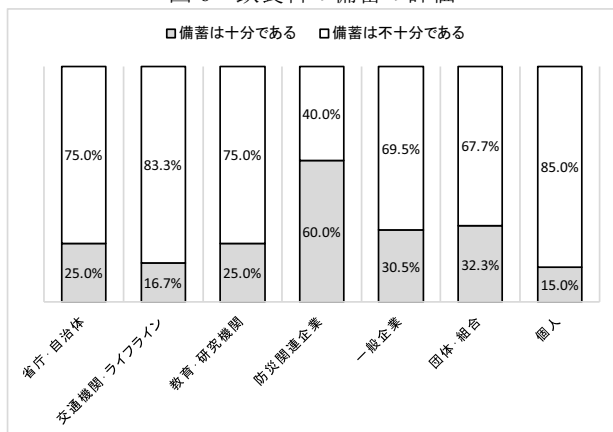
最後に個人の備蓄の割合であるが、最も高いのは、飲料水、主食系で「3日未満」である。副食系（魚肉・牛豚鶏等）および副食系（野菜・果実等）では「備蓄していない」である。その他（菓子・嗜好品等）は「3日未満」である。

飲料水および主食系の備蓄は3日未満が中心であり、副食系は備蓄しない傾向にあり、個人の家の中なので、菓子・嗜好品を多少持っているように考えられる。

(3) 備蓄の意識

図6は「飲食料の備蓄の評価」の回答を示している。

図6 飲食料の備蓄の評価

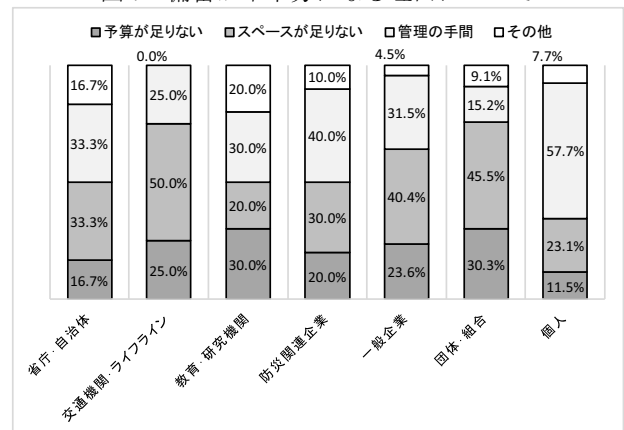


防災関連企業を除くと全部の属性で「備蓄は不十分である」の割合が圧倒的に高い。防災関連企業では「備蓄は十分である」の方が60%と高いが、「備蓄は不十分である」も40%と、20%しかその差がない。他の属性では30%以上の差がある。

つまり、属性ごとに見ても備蓄が不十分であるという意識が高いと考えられる。

図7は「備蓄が不十分になる理由について」の回答を示している。

図7 備蓄が不十分になる理由について



省庁・自治体

「スペースが足りない」と「管理の手間」がともに33.3%で「予算が足りない」16.7%のほぼ倍である。自由記載に、「理解不足。7日以上必要と考えている」というコメントがあり、前述の内閣府「中央防災会議」の「最低でも3日分、可能な限り1週間分程度」の備蓄の推奨と符合する。

交通・ライフライン

「スペースが足りない」50.0%が「予算が足りない」および「管理の手間」25.0%の倍である。飲食料より優先して備蓄すべき機材、資材が多いということも考えられる。

教育・研究機関

「管理の手間」および「予算が足りない」とともに30.0%、「スペースが足りない」は20.0%である。自由記載欄に、「最初が面倒くさい」と「危機感が足りない」という2つのコメントがあり、どちらにも意識の低さが表れていると考えられる。

防災関連企業

「管理の手間」40.0%、「スペースが足りない」30.0%「予算が足りない」20.0%である。交通・ライフラインと同様に、防災関連の業務に係る機材・資材を優先しているということも考えられる。

一般企業

「スペースが足りない」40.4%、「管理の手間」31.5%、「予算が足りない」23.6%である。自由記載欄に「リフォーム中により（備蓄できない）」と「一応な感じ」の2つのコメントがある。リフォーム中でも被災する可能性はあり、これらのコメントにも意識の低さが表れていると考えられる。

団体・組合

「スペースが足りない」45.5%、「予算が足りない」30.3%、「管理の手間」15.2%である。自由記載欄に「知識不足」と「各住民の自覚不足」の2つのコメントがある。記入した人物はある程度の危機感を持って

いると考えられる。

個人

「管理の手間」が57.7%と高く、「スペースが足りない」23.1%および「予算が足りない」11.5%と大きな差がある。自由記載欄に「用意しても期限が早く、見ると切れている」というコメントがある。「管理の手間」の高い割合に符合する。通常、一般家庭では人数が少ないため比較的備蓄・管理がしやすいと考えられているが、一般家庭においても管理が大変であるという指摘がされている。

4. 問題を解決するための方策

災害食の備蓄促進の啓発活動の中で、「ローリング・ストック」(英語でいう **running stock**)、「日常備蓄」(東京都 防災ホームページ)²⁾、といった、買い足しながら消費して行く方法が推奨されている。この方法は主婦等が「古いものから使っていく」消費の仕方に合っており、大人数分の備蓄の管理よりも一般家庭を意識した方法である。それでも、上記のように、「賞味期限が早い」といった管理の手間の大変さを指摘する声もある。

さらに、ローリング・ストック法を単純に企業や行政の備蓄倉庫に当てはめることは無理がある。大量の備蓄が必要であり、期限までに消費しなければならないためである。飲料水と主食系が大半であり、副食系がわずかというような備蓄状況を改善するためには、備蓄の多様化が必要であるが、それが管理の手間を複雑にするとなると現状を変えて行くことは難しいのである。

ローリング・ストック+他の発想

ローリング・ストックを行うには、備蓄をするスペースの場所や備蓄の配置などの工夫が必要である。例えば、家庭において、押し入れや納戸の奥深く、といった場所でローリング・ストックを行うことは難しい。簡単にさっと取り出せるような場所での保管、日付がわかりやすい配置、といった工夫も必要である。

組織の職場においても、1か所に大量に保管するだけでなく、分散して収納するといった発想も必要である。

非常食研究会では、備蓄倉庫の内容を充実させるため、大量備蓄の各食品ごとにローリング・ストックを実現することを提案している。1年に1度など定期的に、各食品ごとに決めた一定の量を消費する方法である。

例えば、保存期間が5年の食品Aと3年の食品Bが150食ずつある場合、毎年、防災訓練の際に食品Aを30食、食品Bを50食ずつ参加者で食べて、それぞれ30食と50食を補充する。各備蓄品の賞味期限が違っていても、1度に消費する量を決めるだけで、古いものから食べて行くだけであるので、管理は単純である。

その他

2012年に筆者らが食品メーカー数社にヒヤリングを行った時には、アルファ化米を社員食堂で出す企業の情報を得た³⁾。社員食堂や購買部等の活用を検討すべきである。自動販売機や置き菓子サービス⁴⁾の内容も検討調整するべきである。また、職場の各所に置き場所

を作り、社員にもお金を払ってもらい昼食や夜食にしてもらう方法もある。筆者はアルファ化米を使用した炊き出し訓練を行っている⁵⁾が、そのまま食べるだけでなく食材として使用しおいしい災害食を作ることもできるのである。

5. まとめ

2013年に東日本大震災が起きた後、食料備蓄に関心が集まった時期があった。5年が経過しようとしていた2月のアンケート調査では、全体的には、備蓄状況にはあまり改善した様子はなく、3日分を中心に、飲料水と主食系に偏った状態が続いていると考えられる。一方、東日本大震災以降も各地で災害が起こり、そのたびに被災地では食の問題がクローズアップされている。食料不足だけでなく、高齢者等の嚥下困難から引き起こされる誤嚥性肺炎の問題、乳児の食事やアレルギー患児への食支援といった要配慮者の食の課題への対応の必要が指摘されている⁶⁾⁷⁾。

アンケート調査の回答から見えるのはスペースの問題および管理の手間の問題である。これらが備蓄の発展を阻んでいる。特に人口の多い都心部などでは、深刻な事態が懸念されており、対策が急がれる。備蓄を唱えるだけでなく、災害時の食に関する知識を増やし、備蓄や消費を取り組みやすくする方法を考案して啓発活動をしなければならない。

参考文献

- 1) 内閣府「中央防災会議」防災対策推進検討会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ:(平成25年12月19日公表)首都直下地震の被害想定と対策について(最終報告)
http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/taisaku_wg/index.html
- 2) 「東京都 防災ホームページ」
<http://www.bousai.metro.tokyo.jp/>
「都民の備蓄推進プロジェクト」PDF
http://www.bousai.metro.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_project/_a.pdf
- 3) 守茂昭:被災地生活支援のための循環型非常食の考案と実例紹介, 地域安全学会東日本大震災特別論文集 No.1, 2012. 8.
- 4) 「グリコホームページ」オフィスグリコ
<https://www.glico.com/jp/enjoy/service/officeglico/>
- 5) 守真弓, 鍋島規久美, 守茂昭:アルファ化米の有効活用と野外炊き出し訓練, 地域安全学会梗概集, No.38, 2016.5.
- 6) 赤城智美: 今後に備え・課題を整理する - 食物アレルギーがある人の支援を考える -, 日本災害食学会第3回研究発表会基調講演, 2015.7.18.
- 7) 須藤紀子:要配慮者の備えと備えの実態~DVD(災害時の食支援)と備蓄調査報告から~, 日本災害食学会シンポジウム「要配慮者の被災と災害食」より『東日本大震災で判明した課題紹介』(抄録収録)日本災害食学会誌, Vol. 3 No.1, 2016.3.